

令和7年度第2回地域福祉計画推進会議 会議録

1. 開催概要

日 時 令和7年11月18日（火）

場 所 川崎市役所101会議室

出席委員（敬称略）

飯嶋委員（川崎市南部基幹相談支援センター 職員）、木村委員（公益財団法人川崎市老人クラブ連合会 理事）

七條委員（あいせん保育園 園長）、寺崎委員（川崎市介護支援専門員連絡会 川崎区支部長）

中島委員（しおん地域包括支援センター センター長）、平野委員（市民公募委員）

服部委員（川崎市川崎区社会福祉協議会 事務局長）、牧岡委員（共育ひろば主宰・社会学博士）

宮越委員（川崎区地域教育会議 議長）、宮田委員（田島地区身体障害者協会 会長）

山木委員（川崎区民生委員児童委員協議会 副会長）

事務局

山崎区長（川崎区役所）、町田所長、若尾副所長（地域みまもり支援センター）

早川課長、三ッ橋係長、柴田（地域ケア推進課）

オブザーバー

成沢課長（企画課）、曾我課長（地域支援課）、笹島課長（高齢・障害課）、

石田担当課長（保育所等・地域連携担当）

2. 議題

- （1）令和7年度川崎区地域づくりについて（経過）
- （2）第7回川崎区地域福祉実態調査について
- （3）川崎区地域支え合い人財づくりイベントの実施について
- （4）情報交換等
- （5）その他

3. 配布資料

会議次第

川崎区地域福祉計画推進会議委員名簿

川崎区地域福祉計画推進会議開催運営等要綱

資料1 令和7年度の地域づくりについて（経過）

参考資料1 令和7年度カレーサロンについて

資料2 第7回川崎区地域福祉実態調査について

資料3 第7回地域福祉実態調査ヒアリング結果について

資料4 地域支え合い人財づくりイベントの実施について

参考資料2 地域活動支援センター展示販売会「かわさきふれあいマルシェ」の開催について(報告)

参考資料3 地域デザイン会議報告資料

閲覧用 第7期川崎区地域福祉計画 本編

4.意見要旨

(1) 令和7年度川崎市地域づくりについて（経過）

資料1に沿って、地域づくりについての途中経過を事務局から説明。田島地区の取組であるカレーサロンの主催である田島地区社会福祉協議会の山木委員や当日参加していた牧岡委員の感想の他、各地区の取組についての意見を求めた。

【田島地区について】

（山木委員）カレーサロンのはじまりは、昨年3月に区の保健師から独居の高齢者が社会に出るきっかけを作ってほしいと相談を受けたことから始まっている。昨年開催した時からそれぞれ10名ほど増えており、浸透してきたかなと感じている。用意する食数を増やすことも考えている。毎月やってほしいとの声もあったが、大変なのでしばらくは年4回ずつ実施していきたい。

（牧岡委員）1人暮らしの人にカレーは人気だなと改めて感じた。あの場で「久しぶり」と話しをしている場面を見た。だんだん回を重ねるごとに慣れてテイクアウトが増えてしまうのはなかなかもったいないと感じた。アウトリーチが大切なので、テイクアウトの人にも包括のスタッフなど、専門職が声をかけられるようにしているとより良いと思う。包括のスタッフが声をかけるととまらない場面も見たので、そういうやりとりは非常に大切。個人的には、「あの人とこの人が繋がっているのか」という発見もあった。

【大島地区について】

（山木委員）子育てサロンや母親クラブが少ないとあるが、子育てサロンは大島地区にはないのか。

（石田担当課長）大島地区には、大島保育園に併設された地域子育て支援センターおおしまがあり、常設で平日は毎日開所している。ただ、そこだけあればいいというわけではなく、近所の民生委員と母子がつながれるような場所ができれば良いなと思っている。

（牧岡委員）センターに来る親同士のつながりはあるのか。

（石田担当課長）利用者同士でお友達になる様子はよく見かける。

（牧岡委員）鶴見の子育てサークルの立上げに関わったことがあるが、利用者同士が仲良くなることで、後々、やる側に回ってくれるようになってくるので、利用者同士のつながりもとても大切だと思っている。

(2) 第7回川崎市地域福祉実態調査について

資料に沿って実態調査のヒアリング結果を事務局から説明。調査に同行した平野委員や牧岡委員の感想の他、調査結果についての意見を求めた。

（平野委員）自分の住んでいる地域の民生委員児童委員協議会が選定されていて、どんな活動をしているのか知りたくてヒアリングに同行した。話を聞いていて、実際自分もそうだが、地区社会福祉協議会や町内会等活動がいろいろ重複していて、どの活動がどの団体なのかがはっきりしていないと感じた。また、民生委員の活動は今後も大切だなと感じた。

（牧岡委員）地域子育て支援センターあさだや地域相談支援センターさんのヒアリング結果を説明してもらったが、この会議には様々な分野の方が出席しているので、それぞれ分かりやすく説明してもらえないか。

【地域子育て支援センター】

(石田担当課長) 地域子育て支援センターとは、子育て支援するための施設で、0歳から就学前の子どもとその保護者が利用している。だいたい中学校区に1つあるように開設しており、川崎区には8つある。地域子育て支援センターは3種類あり、週に5日開所する単独型のセンター、保育園併設のセンターに加えて、週に3日午前中開設するこども文化センター連携型センターに分かれている。保育園併設のセンターには保育士等の専門職がいる一方で、連携型には保育士が必置でないため、近隣の保育園と連携しているところもある。

(牧岡委員) 地域子育て支援センターを併設しているあいせん保育園からみてどうか

(七條委員) 地域子育て支援センターは多く利用されているが、園庭開放等をしていってもなかなか保育園への来園は少ないように感じる。なので、おさんぽに来ている親子等に声をかけて口コミで広げてもらえるようにしている。一方で、保育園や地子センに足が向いていない人たちが心配。悩みがあってもどこに相談したらいいかわからない人が川崎区は多いのではないかと考えている。悩みを抱えたままになるとそれが虐待につながっていく可能性もあるのでどうかしなくてはならない課題だと感じている。ただ、紙パンツに肌着で歩いている子どもがいて心配だけど、どこに連絡したらよいか分からない等の相談をしてくれることもあるので、地域の人も気になる家族を見守ってくれているように感じている。

(牧岡委員) 地域子育て支援センターあさだのスタッフの方は、とても視野が広く、自分の住む地域でも町内会等に参加しているからか、自分の経験を基に自分事に引き付けてから利用者の相談に返せているような感じだった。開所している様子を見に行ったら、本当に利用者同士が仲良さそうにしていて、あの自然さがとても良いと思った。始めてから数年と聞いていたが、これからが楽しみなセンターだと感じた。

【地域相談支援センター】

(飯嶋委員) 地域相談支援センターは川崎市の委託事業で、障害に関する相談を受けており、川崎区に4カ所ある。それぞれに地域が割り振られており、障害がある人にとっての地域包括支援センターと言えば分かりやすいかもしれない。

(牧岡委員) 地域相談支援センターさらんの話聞いて、相変わらずすごいことをやっているなと思った。スタッフの2人は他の現場から一緒にやってきた仲だと聞いている。抱える課題はかなり重いものが多く、どうしようもなくスタッフが泊まりこみで対応した事例等をお話いただいた。一方で、自閉症の子がふらっと顔を出しに来てくれるなど、気軽に立ち寄れる場にもなっているとのことだった。

(飯嶋委員) 他団体との交流に記載があるが、特に医療的ケア児は幼児期から児童期、児童期から成人期に支援する人が変わってしまうので、つなぎがかなり重要になってくる。また、さらんの課題にも挙げられているが、川崎区にはグループホーム等の施設が少ないため、住み慣れたところから出ていかななくてはならなくなってしまう方がとても多い。先ほど、さらんのスタッフが泊まり込みで対応したという話もあったが、委託事業としてではなく“人として”の行動であると思う。その壁を越えて行動できるのはそのスタッフのすごいところだと思う。また、さらんは気軽に立ち寄れる場所になっているとのことだが、商店街の中にある立地も影響していると思う。他の地域相談支援センターは地域にあまりオープンではないところもある。それは決して悪い訳ではなく、利用者の中には地域にオープンでない方が相談しやすいという方もいる。地域相談支援センターは、自分の住んでいる地域ではなかなか相談しにくいという声もあるため、応相談で地区を超えて相談できるようにもしている。

【民生委員児童委員協議会】

(山木委員) 民児協と社協の区割りが違う地域があることを知らなかった。他にもこういう場所があるのか。

(早川課長) 他にも複数箇所ある。地区社協は川崎区では町内会のエリアが主体となっているが、過去の経緯などもあり民児協のエリアと異なるケースもある。学区変更などがあった際には民生委員さんの活動エリアと学区がずれることもある。

(3) 川崎区地域支え合い人財づくりイベントの実施について

資料4に沿って、地域支え合い人財づくりイベントについて事務局から説明。イベントの内容等についての意見を求めた。

(山木委員) みんなのごはんやおにぎりキャラバンもボランティアとして紹介するのはどうか。みんなのごはんでは食料配布だけではなく、おしるこを作って配布する等もしている。

(牧岡委員) みんなのごはんでは配布する食糧はどこから集めているのか。

(服部委員) 賛同いただいた企業からレトルト食品やお米等をもたらしている。

(牧岡委員) みんなのごはんのような場所で、いろいろな人に合うと、いつもと違う場所なので、いつもと違った話ができて、とても良い機会だと感じている。

イベントについては人が集まるか少し心配している。もうひとつなにか目玉があってもよいのではないかとも思う。

(早川課長) なるべく多くの方に来てもらいたいと思い努力しているが、大切なのは本当にボランティアに興味がある人が来てくれることだと考えている。このため、普段市政だよりや町会回覧などを見ない方達に周知する努力をして、反応が悪くてもその結果を受け止めて次を考えたい。

(牧岡委員) いろいろなボランティアについての調査を見たことがあるが、大体4割～5割がボランティアについて「興味がある」や「機会があったらやってみたい」等と回答しているので、その層を獲得できたら良いと思っている。

(早川課長) 手話や傾聴ボランティアは講座を開くと定員が埋まると聞いているので、ボランティアに興味のある人は増えてきていると感じている。

(4) 情報交換

(宮田委員) 先ほど手話のボランティアについて話があったかと思うが、身体障害者会館で、夏休みに親子の手話教室を開いている。募集は5月～6月半ばくらいに行っているので、興味がある人がいれば紹介してほしい。

(寺崎委員) 地区割りに関しての話があったが、包括支援センターで働いている時にも町連と社協区と民児協の区割りが違って、2つの包括も担当地区が交じり合っていて、難しかったことを思い出した。また、南町のまちなかの縁側が立ち上がった時に転入してきたばかりの小さい子ども連れの若いお母さんが遊びに来てくれて、多世代交流になってとても良いなと思ったが、捕まえきれなかったことも思い出した。年齢や属性が違う人たちを同じ場所に留めておくのは難しく、今の仕事でも高齢者向けに取り組んでいるが、高齢者といっても60代後半と90代をひとくくりにはできない。若い方もいて多世代の交流になることは理想だが、集まりやすさや入りやすさを考えないといけないなと考えている。また、介護をしている人は孤立してしまうことがあるので、集まれる良い場がないかなと思っている。だいたいどの包括でも介護者の集まりの場をいろいろと作ってくれていると思うので、上手く風穴をあけられると良いなと思っている。

(七條委員) 医療的ケア児についての話もあったと思うが、川崎市では公立保育園での受け入れしかできないこととなっているので、民間が手を出せないようになってしまっている。こどもにとって、集団の中で過ごすことはとても良いことなので、民間でも受け入れられるようになれば良いのにと感じている。

(石田担当課長) 公立保育園では、全園で医療的ケア児の受入れを行っていて、現在は合計で18名程度が在園している。

(木村委員) 老人会は会を持続させること自体が難しいので、どれだけ元気に暮らすことができるかに重点を置いて活動している。その中でも、友愛チームの活動にも力を入れている。ひとり暮らしの人はもちろん、家族はいるが日中はひとりで1日中家にいる人たちがどれだけ元気に外に出てきてくれるかを考えている。他の団体では、役員が決まったら10年くらい代替わりはないかと思うが、老人会では3年くらいで替わってしまう。若い人が入ってきてくれれば良いのだが、70過ぎても働いている人が多いため、なかなか老人会には入ってもらえない。なんとか頑張っていきたいと思うので、地域の人にはあたたかく応援してもらいたい。

(飯嶋委員) 地域相談支援センターについて説明させていただいたので、基幹相談支援センターとの違いについてもお話したい。地域相談支援センターは第1の相談窓口である一方で、基幹相談支援センターは地域相談支援センター等の障害のある方たちを支えている人を支えているイメージ。基幹相談支援センターが設立されて4年経ったが、やっと何をすべきか見えてきたというのが現状。先ほども話をしたが、医療的ケア児はつながりが難しい。そのつながりのきっかけや土台を作るのが私たちの仕事なのかなと感じている。支えられる人が安心して地域で暮らせるように、支える人たちがケースワークしやすい環境を整えられるように動いていきたい。地域福祉計画にも南部基幹相談支援センターや地域相談支援センターの名前を載せてもらえると嬉しい。

(平野委員) 中央第2地区社会福祉協議会の広報誌「きずな」77号に「しあわせ」について執筆した。内容は、しあわせとは心身ともに健康で、好きなものを好きなだけ食べられること。筋肉をたくわえる貯筋を今から始める必要がある。心も身体も鍛えて元気に暮らすことがしあわせだということ伝えたい。

(服部委員) かわさきマルシェの動画を拝見した。他にも主任児童委員さんの動画も拝見したが、活動している方の思い等が分かりやすく良い取組だと思った。川崎区に来てから半年以上が経ったが、驚いたのは地区社協と町内会の会長が一緒のところが多いということ。他の区ではなかなかない光景だと思った。他にも、あんしんセンターへの相談が多いという印象もある。今日の食糧がない方が多く、借金まみれになって最後の砦として来所する人もいる。

(宮越委員) 富士見公園の冒険士の広場について報告したい。広場には「農のひろば」と「土のひろば」がある。子どもたちが楽しめるように、スリルのある遊具を用意している。例えばボルダリングや、土木工事で使う土管を譲ってもらって3つ置いたりして、子どもの想像力を掻き立てる場所になりたいと思っている。富士見公園の中という立地で、周りから中の様子が見えるので、呼び込まなくても人が自然に入ってくる。どろんこ遊びで服が汚れるからといってダメと言うお母さんも少なく、寛大な人が多い地域だなと思う。畳一枚分の広さではあるが工作コーナーを作るなど、決まった遊びではなく、自分で考える遊びを増やしている。外国につながる子どももたくさん来ている。オープン時は必ず見守りをしていて、その中には大学生も参加している。その大学生はゼミで多文化共生を学んでいて、ここで取材すればいいと話したりもしている。地域子育て支援センターの話にもあったと思うが、将来ここで遊んでいた子が見守るスタッフとして関わるようになるつながりも期待している。

(山木委員) 田島地区社協の活動になるが、カレーサロンが12月12日は田島いこいの家、2月9日は桜本いこいの家で実施する。民生委員の活動については、改選が12月にあるので、今は休息期間となっている。

(中島委員) 大師第4地区の話にもあったが、認知症の受容については、しおんの管轄でも問題になっている。地域で、認知症の人が無銭飲食をしてしまった時、「今回はいいけど、もうお店には来ないでくれ」と言われたという話があった。他にも、分別がうまくできない人がいて、分別できるように紙を渡したがなかなか改善しないという人や、敬老祝いの会でお土産をたくさん持って帰ってしまう人、演芸会の準備になかなか来てくれない人など、いろいろなケースがある。地域の人は困りながらも支えてくれている。なので、どのようなことができるか地域の人と話合う場を設けたいなど思っている。また、地域資源について、しおんの管轄には、前は2つあったグループホームはなくなり、訪問介護の事業所も3つあったが現在は1カ所だけになってしまった。一方で、子ども食堂が増えたり、就労支援施設が増えたりと、地域の実情がここ数年でガラッと変わっているのではないかと感じる。

以上。